

薬研

おなかが痛い、風邪をひいちゃった
：私たちはこんな時、家にある薬を
飲んだりします。普段私たちが使っ
ている薬、昔はどのような道具を
使って作っていたのでしょうか。

今回は、薬作りに一役買った「薬
研」についてお話しします。

『古事記』の中に、大國主命が因幡の白兔の傷に薄黄（ガマの花粉）を用いたこと、大國主命の火傷に赤貝とはまぐりの黒焼きを用いたことが記されています。これは日本で記録に残っている最古の薬だと言われていますが、製法までは載っていません。

さて、歴史の教科書にルイス・フ

市埋蔵文化財センター
☎ 23-8020

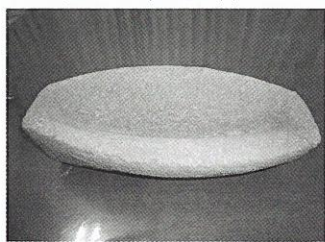
30
どきどき
たいむとらべらー



ロイスという人が出てきます。彼が書いた日本と西洋の文化比較についての文書の中に、「われわれの薬味や薬は、乳鉢または搗臼（すり鉢）の中でつき砕かれる。日本では、銅製の舟型容器の中で、両手に持った鉄の輪によってつき砕かれる。」とあるそうなのですが、この道具が、中国で発明され日本には平安時代以降に伝来したといわれる「薬研」です。

薬研は、薬を作るとき薬効のある植物・動物質のもの・鉱物などの薬材となるものを、細かい粉状にするための道具で、細長い舟形の中央にV字形にくぼんだ臼にあたる部分を持つた器具と、車輪のような丸い形をしたものに軸を通した磨り具からなり、木製・金属製・石製のものがあります。使い方は、中央のくぼみの部分に薬材を入れ、磨り具の両軸を手でつかみ、磨り具を前後に回転させながら薬材を粉状にします。

平成11年に行なわれた史跡九戸城跡の発掘調査の際、二ノ丸の調査区内から石製の薬研が出土しています。昔のお医者さん、一生懸命薬を作っていたのでしょ



薬を作る道具だった薬研

こみゆてaたいむ

40杯目

地域リーダー研修会を開催

「地域リーダー研修会」は、協働のまちづくりをリードする人材、団体の育成を図るため、町内会やNPO法人などの団体、市民、自治体職員を対象に毎年開催しています。今回の研修会では、全国各地で地域づくりの活動や講演、研修会の講師をされているNPO法人せんだい・みやぎNPOセンターの紅邑晶子氏を講師に迎えて、市民参加と協働によるまちづくりの実際について学びます。

今年度、各町内会や常会では、それぞれの地域カルテを作成し、地域内の課題発見や地域資源の発掘に取り組んでいただきました。これから地域と行政が一体となって「地域づくり計画」を策定していくこととなります。

町内会や常会、自治会の皆さん必見の、地域づくりのヒントがいっぱい詰まった研修会です。どなたでも参加できます。多くの皆さまのご来場をお待ちしています。

日時 11月15日(月) 13:30～17:00

16日(火) 9:00～12:00 (2日間)

場所 岩手県立 県北青少年の家

講師 NPO法人 せんだい・みやぎNPOセン

ター常務理事 紅邑晶子 氏

研修内容 (予定)

◎1日目 ①グループワーク「地域コミュニティの現状と課題の把握について」

②講話「協働をめぐる疑問にズバリ答えます」

◎2日目 ①グループワーク「市民参加と協働とは？」②講話「市民参加と協働の実際」

入場料・定員 無料・50人

【町内会等活動支援交付金の申請をお忘れなく】

例年、町内会等活動支援交付金を申請していて、今年度町内会等活動支援交付金「環境整備等交付金」、「コミュニティ活動交付金」、「コミュニティ施設運営交付金」の交付申請をしていない町内会、地域公民館は忘れずに申請願います。

申請書の様式などは、地域づくり推進課またはお近くのコミュニティセンター、地域担当職員にお問い合わせください。

◇二戸市文化祭・日本文化のつどい

二戸市文化祭のステージ部門の一部である「日本文化のつどい」が開催されます。

若柳千景社中と若柳蔦和社中による「日本舞踊」および船場秀子社中による「箏曲」が鑑賞できます。

日時 10月17日(日) 午後1時～

場所 市民文化会館 大ホール

問い合わせ先 若柳千景(☎27-2366)

この欄の問い合わせは、市地域づくり推進課(内線652)まで